

令和2年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

<今年度は書面開催となりました>

法人名	特定非営利活動法人 ワーカーズわくわく	代表者	理事長 飯塚 陵子	法人・ 事業所 の特徴	『あってよかった わくわく』を法人スローガンに利用者に寄り添った支援を心がけている。勤続年数10年以上のスタッフが4割をこえており、職員のスキルの高さとチームワークによりきめ細かなサービスの実現につながっている。地域との連携強化を行いながら地域に開かれた事業所をめざしている。
事業所名	わくわくの里	管理者	飯塚 陵子		

書面 評価者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	0人	0人	1人	0人	5人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	計画的に自己評価実施を進め内容に向き合う時間を職員に提供できるよう配慮していく。	段取りを立て職員への発信を行いスムーズに取り組みができた。新人職員に多少の戸惑いがあったが丁寧に説明していった。	新型コロナ感染拡大の影響もありスムーズに進められない中、工夫をしながら取り組んでいた。	自己評価期間において個々の取組みを把握し適切な評価を出せるようサポートしていく。
B. 事業所のしつらえ・環境	年度末の会議は自治会集会場を利用させていただく。事業所内の使いやすさの見直しを進め改善していく。	新型コロナ感染拡大の影響もあり集会場での会議開催は3密を避ける点からも妥当だった。対面をさけるための工夫を行った。	今回は会議開催が事業所内部でできなかったため室内の様子や活動については毎月発行の里だよりで把握してもらったため具体的な意見はでなかった。	施設内部の様子をどのように情報発信していくか検討していく。
C. 事業所と地域のかかわり	区社協作成のトイレマップへの掲載参加をした。新型コロナ感染拡大防止対策を行いながら地域とのかかわりの工夫を検討していく。	ほとんどの行事、外部からの受け入れ態勢がストップせざる負えない状況だった。その中で地域サロンの開催状況は把握し続け、参加者に里だよりを配布した。	対策をとりながら可能な限りかわりを持とうと努力していたと思う。	ネットワークを活用しコロナ禍でも地域とつながっていける工夫をしていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	運営推進会議の中で利用者以外の情報共有をテーマにとりあげていく。里だよりの内容を工夫し地域情報をおりませっていく。	利用者以外の地域住民にも常に意識をし変化に気づく体制を整えている。地域への情報発信をおり交ぜた里だよりを作成した。	会議の中で気になる方の情報共有ができています。	自宅訪問が増加しており近隣住民とのスムーズな連携が行えるよう職員間での情報共有を強化していく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	参加できていない職員を優先して運営推進会議への参加を年間計画に入れていく。	コロナ禍の影響で参加はできなかった。	運営推進会議開催時は積極的な意見交換ができており顔のみえる関係性を確立している。	感染対策を行いながらできるだけ顔をあわせての運営推進会議開催を実行していく。
F. 事業所の防災・災害対策	今年度も年 1 回は消防立ち合いの避難訓練と運営推進会議を合わせた日程で実施する。	今年度は消防立ち合いの訓練も中止となり開催はできなかった。	新型コロナ感染拡大防止に伴い開催不可はしかたがない。	コロナ禍は続く方向ととらえ、机上訓練での情報共有を進めていく。